

一般演題 1 O1-06

疼痛性疾患に対する高気圧酸素療法の現状についての一考察

○小山祐介

福山市民病院

【目的】

疼痛性疾患に対して高気圧酸素治療が現状どのように適用されているか調査検討する。

【方法】

検索エンジンとして医中誌を用い、高気圧酸素治療の適応となっている疼痛性疾患およびその周辺語と、高気圧酸素治療に関わるキーワードにより、過去10年間にわたり検索を実施した。疼痛性疾患に関する語は汎用されている指針（慢性疼痛診療ガイドライン他）より採用した。

【結果】

高気圧酸素治療が適用されている疼痛性疾患の種類は、末梢循環障害が多く、ほかに炎症性疾患、神経疾患などがあがった。全体的に疼痛管理に関する記述は詳細でなかつたものの、疼痛治療そのものにとどまらず周辺ケアについて取り上げた内容もみられるなど、幅広い範囲にわたる内容の報告がみられた。

【考察】

疼痛性疾患に対しては、薬物療法に加えて、心理的アプローチとリハビリテーションなどを中心とした治療方針がとくに慢性難治性疼痛において確立されつつあり、従前に比べて効果を挙げてきているといえる。しかしながら、依然として治療に難渋する局面も少なくなく、新しい治療の選択肢を創意工夫する余地は今後も拡大するものと思われ、高気圧酸素治療に期待される役割はますます大きくなると考えられる。疼痛性疾患の管理については各種の指針やガイドラインが体系的に整備されつつあり、高気圧酸素治療も治療手法として知見の集積がさらに進められた上で、今後疼痛性疾患の一治療法として積極的に位置づけられるべきである。